

◆震災復興に関するアンケート調査 設問別コメント◆

問2 地震発生時の居場所

「自宅」が全体の90.1%を占めています。

【特性別】

- ・60代以上、農林水産業を含む自営業等で「自宅」の割合が高くなっており、居住地別では、宮内地区で100%が「自宅」となっています。

問3 地震発生時の避難場所

「車中」が52.9%と過半数を占めてもっとも高くなっています。ついで「町の指定した避難所」が14.7%となっています。「避難しなかった」人も22.1%と2割強となっています。

【特性別】

- ・30代、農林水産業を含む自営業、二世帯・三世帯世帯等で「車中」の割合が高くなっています。
- ・居住地別では、竜野、乙女、白旗の各地区で「車中」の割合が高くなっています。

問3-1 【問3で「1. 町の指定した避難所」と回答した方】避難所としての感じ

「不十分であるがやむを得ない」が42.2%と4割以上を占める一方、「体が休まらない」も40.6%と4割を超えています。

問4 被害の具体的状況

「居住する家屋が損壊した」(60.9%)「家財道具が損壊した」(57.2%)が過半数を占めて目立って高くなっています。ついで「自宅周辺の道路、地盤、隣家が損壊した」が39.8%となっています。

【特性別】

- ・「居住する家屋が損壊した」は、50代、農林水産業を含む自営業、三世帯世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区、白旗地区で割合が高くなっています。
- ・「家財道具が損壊した」は、無職・その他、単身及び三世帯世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区、白旗地区で割合が高くなっています。
- ・「自宅周辺の道路、地盤、隣家が損壊した」は、40代、農林水産自営、三世帯世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、宮内、乙女、白旗の各地区で割合が高くなっています。

問5 発災直後に困ったこと

「車中泊をしていたこと」が57.7%で最も高く、ついで「食糧・飲料が不足していたこと」41.8%、「生活道路が寸断され生活に支障があったこと」32.6%となっています。

【特性別】

- ・「車中泊をしていたこと」は、30代以下、農林水産業を含む自営業、三世帯世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「食糧・飲料が不足していたこと」は、30代以下、50代、二世帯世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区、白旗地区で割合が高くなっています。
- ・「生活道路が寸断され生活に支障があったこと」は、20代以下と50代、つとめ等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。

問6 計画策定にあたって重要な取組み

30%以上を占める項目が多いため、上位3項目をみると、「安全・安心な情報交通インフラの緊急整備」が58.4%で最も高く、ついで「安心して甲佐に住み続けられる、転入してもらえる住環境の再生」52.9%、「熊本地震の教訓を踏まえた消防・防災対策の見直し」49.2%となっています。

【特性別】

- ・「安全・安心な情報交通インフラの緊急整備」は、30代、つとめ、単身世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、宮内地区、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「安心して甲佐に住み続けられる、転入してもらえる住環境の再生」は、40代、無職・その他、その他世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、竜野地区で割合が高くなっています。
- ・「熊本地震の教訓を踏まえた消防・防災対策の見直し」は、農林水産自営、主夫・主婦等での割合が高くなっており、居住地別では、宮内地区、竜野地区で割合が高くなっています。

問7 生活再建支援・社会生活基盤の復旧での重要・必要な取組み

「生活再建のための経済的支援」が70.3%と圧倒的に高くなっており、ついで「居住環境の復旧」が48.7%で続いています。

【特性別】

- ・「生活再建のための経済的支援」は、40代、農林水産自営等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区、白旗地区で割合が高くなっています。
- ・「居住環境の復旧」は、40代以下、その他世帯等での割合が高くなっています。

問8 公共施設復旧での必要な取組み

「道路」が58.2%と圧倒的に高くなっています。

【特性別】

- ・50代、つとめ等で、居住地別では、宮内地区、白旗地区でそれぞれ「道路」の割合が高くなっています。

問9 未来を担う子どもたちの育成での重要・必要な取組み

「地域ぐるみでの子育て体制の強化」が43.0%で最も高く、ついで「被災により生じた不安・悩みに対する継続的な心のケア」36.8%、「コミュニケーション能力の育成」33.6%となっています。

【特性別】

- ・「地域ぐるみでの子育て体制の強化」は、70代以上、農林水産自営、夫婦だけの世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、竜野地区で割合が高くなっています。
- ・「被災により生じた不安・悩みに対する継続的な心のケア」は、女性、50代、主夫・主婦等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「コミュニケーション能力の育成」は、40代、単身世帯、三世代世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、竜野地区、白旗地区で割合が高くなっています。

問10 高齢者が安心して暮らしていくために重要・必要な取組み

30%以上を占める項目が多いため、上位3項目をみると、「訪問・声かけ等の見守り活動の充実」が54.0%で最も高く、ついで「被災により生じた不安・悩みに対する継続的な心のケア」46.4%、「介護予防サービスの充実」「防災・安全対策の充実」が各40.7%となっています。

【特性別】

- ・「訪問・声かけ等の見守り活動の充実」は、30代、40代、単身世帯等での割合が高くなっています。
- ・「被災により生じた不安・悩みに対する継続的な心のケア」は、40代、主夫・主婦、その他世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「介護予防サービスの充実」は、40代、主夫・主婦等での割合が高くなっています。
- ・「防災・安全対策の充実」は、60代、農林水産自営、主夫・主婦等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。

問 11 障害のある人が安心して暮らしていくために重要・必要な取組み

30%以上を占める項目が多いため、上位3項目をみると、「障害者福祉の拠点施設の整備」が52.9%で最も高く、ついで「被災により生じた不安・悩みに対する継続的な心のケア」51.0%、「障害者に配慮した住宅の整備や改造」45.7%となっています。

【特性格】

- ・「障害者福祉の拠点施設の整備」は、40代、50代、農林水産自営、主夫・主婦、無職・その他等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「被災により生じた不安・悩みに対する継続的な心のケア」は、女性、主夫・主婦、その他世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「障害者に配慮した住宅の整備や改造」は、40代、単身世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。

問 12 地域コミュニティの再構築のために重要・必要な取組み

「行政区自治組織の支援」が67.1%で最も高く、ついで「公園やコミュニケーションプラザ等交流スペースの設置」35.6%となっています。

【特性格】

- ・「行政区自治組織の支援」は、70代以上、農林水産自営、夫婦だけの世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「公園やコミュニケーションプラザ等交流スペースの設置」は、30代、50代、主夫・主婦等での割合が高くなっています。

問 13 産業の再生のために重要・必要な取組み

「事業者への経済的支援」が48.0%で最も高く、ついで「農地や工業用地のインフラ復旧」34.7%、「農産物の販路の確保・拡大」33.6%となっています。

【特性格】

- ・「事業者への経済的支援」は、30代、その他自営、三世帯世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「農地や工業用地のインフラ復旧」は、農林水産自営、単身世帯等での割合が高くなっています。
- ・「農産物の販路の確保・拡大」は、宮内地区で割合が高くなっています。

問 14 観光の振興のために重要・必要な取組み

30%以上を占める項目が多いため、上位3項目をみると、「町の魅力が伝わるような効果的な情報の発信」が49.9%で最も高く、ついで「宿泊施設や観光施設を拡充する」45.5%、「農林商工が一体となり、甲佐町ならではの特産品を開発する」42.5%となっています。

【特性格】

- ・「町の魅力が伝わるような効果的な情報の発信」は、70代以上、主夫・主婦、無職その他、単身世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「宿泊施設や観光施設を拡充する」は、20代以下で割合が高くなっています。
- ・「農林商工が一体となり、甲佐町ならではの特産品を開発する」は、60代以上、農林水産自営、主夫・主婦、単身世帯等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。

問 15 災害に強いまちづくりのために重要・必要な取組み

30%以上を超える項目は、「災害発生時に実用性のある情報伝達手段の確保」の38.9%のみとなっています。

【特性格】

- ・「災害発生時に実用性のある情報伝達手段の確保」は、30代、70代以上、単身世帯等での割合が高くなっています。

問 16 新たな生活スタイルへの転換のために重要・必要な取組み

「リサイクル等省資源化への取組み」が44.8%で最も高く、ついで「薪ストーブや太陽光発電等再生可能エネルギー導入の支援」43.9%、「地産地消の取組み」43.0%となっています。

【特性格】

- ・「リサイクル等省資源化への取組み」は、70代以上、その他自営等での割合が高くなっており、居住地別では、乙女地区で割合が高くなっています。
- ・「薪ストーブや太陽光発電等再生可能エネルギー導入の支援」は、40代での割合が高くなっており、居住地別では、宮内地区、竜野地区で割合が高くなっています。
- ・「地産地消の取組み」は、50代、農林水産自営、主夫・主婦、夫婦だけの世帯、その他世帯等での割合が高くなっています。